

氏名	中 塚 洋 一		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	博乙第 1995 号		
学位授与の日付	平成元年 3月 28日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学位論文題目	非観血的に治療した先天股脱の成績		
論文審査委員	教授 寺本 滋	教授 折田薫三	教授 村上宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Lorenz 法により非観血的に治療した先天性股関節脱臼（先天股脱と略）40例について平均22歳と平均33歳の約10年の間隔で繰り返し直接検診し，青壮年期股関節症の発症要因をX線学的に解明した。

骨成長終了後の大腿骨頭，頸部の変形をⅠ型（正常型），Ⅱ型（外反型），Ⅲ型（大転子高位型），Ⅳ型（非整復型）に分け，Ⅲ型は早期骨端線癒合の範囲により，外側優位のⅢa型と中心部あるいは内側優位のⅢb型に細分した。

関節裂隙の狭少比例はⅡ，Ⅲa，Ⅳ型に限られ，特にⅡ，Ⅳ型で進行が著しい傾向にある。一方，Ⅰ，Ⅲb型の多くは他の型に比し求心性が良好であり関節症性変化の進行は認められなかった。また，X線点数の低いものほど10年間に進行し易い傾向にある。臨床像についてはX線像と関節症期が一致しないことも多く，ある程度の幅をもって徐々に悪化すると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は先天性股関節脱臼の治療に関する臨床研究であるが，40症例55股についてLorenz法による非観血的治療を行い，以後10年間隔でくり返しその後の経過について検討した。大腿骨頭ならびに頸部の変化を4型に分類するとともにその変化進行等について重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。